

2026年度 群馬県立女子大学文学部文化情報学科

学校推薦型選抜

採点のポイント

流言、うわさ、フェイクニュース等はインターネットなどのデジタルメディアが登場する以前から存在するものであり、「聡明な懐疑心」をもってしても、時にわれわれは誤った情報に惑わされかねないというメディア社会の危険性をうったえる本文の要旨を適切につかんでいること。その上で、適宜具体的な事例などを挙げながら、様々な情報があふれる現代社会において求められる態度を批判的かつ説得的に論じられていることを評価のポイントとする。

(1) 「流言、うわさ、フェイクニュース等はインターネットなどのデジタルメディアが登場する以前から存在するものであり、「聡明な懐疑心」をもってしても、時にわれわれは誤った情報に惑わされかねない」という筆者の主張の大意を的確に咀嚼し、正しく言語化してまとめられていること。

(2) 本文であげられている「デマ」や「虚報」の類は、時代や媒体を問わず非常に速いスピードで流布する傾向があることを、適宜現在の身の回りの事例等を挙げながら論じられていること。

(3) 上記(1)(2)の内容を踏まえ、それらと矛盾せず、情報流通における問題点を自分の言葉で論理的に説明できていること。